

- ▼2月に入り立春を過ぎても、寒さ真っ盛りの日が続いています。
- ▼2月中旬、厳寒の地、北陸・東北・北海道では大雪による被害状況が連日テレビでも報道されました。
- ▼こうした折り、今月号の表紙写真は雪帽子を被った「カヤグロ」をショットしました。
- ▼このカヤグロは、秋口に刈り取ったカヤを束ねて積み上げたものです。
- ▼近年は、こうしたカヤグロを見る機会も少なくなっています。
- ▼カヤといえども焼き捨てることはせず、自然との共生を伝来の教えとして守り続けられているのでしょうか。
- ▼カヤは、茅葺き屋根の材料、また、堆肥などとして利用されます。
- ▼今や、茅葺きの屋根の家の数は、めっきり減少しましたが、日本建築にあって、日本の四季折々に適するカヤを屋根に利用した先人の知恵には、改めて頭が下がる思いで一杯です。
- ▼何もかも、お金があれば済む、解決すると思われがちな時代がありますが、カヤグロは“勿体ない”の精神を伝えてくれているようです。
- ▼雪が融ければ、まもなく新緑に覆われる季節が訪れます。
- ▼このカヤグロは、一体どのような形で人間生活に有効に使用されるのでしょうか？
- ▼カヤグロの側を流れる小川周辺の斜面にはツララが下がり、自然の織りなす造形に魅了されました。



## contents

- ② 乳雌子牛の出生率を高めませんか!?
- ⑥ 会議だより
- ⑧ 研修だより
- ⑨ 地域コミュニティ
- ⑬ 技術情報
- ⑭ 森税理士の「ちょっと気になる税務のはなし」
- ⑯ ミルクパーラー
- ⑰ お知らせ
- ⑳ 窓シリーズ
- ㉒ 酪農テレックス

# 乳雌子牛の出生率を高めませんか!?

う?ん...!? 「乳雌子牛の出生率が低下傾向に...」

確実な後継牛確保とE T和牛の産出で

健全な酪農経営にチャレンジを!!

平成二十六年二月一日現在の統計発表では、全国の乳用牛飼養戸数は一万八千八百戸で、廃業等により前年に比べて八百戸(四・一%)、飼養頭数は百三十九万五千

頭で、前年に比べて二万八千頭(二・〇%)と何れも減少しています。

このことは、広島県においても例外では無く、生乳生産基盤の脆弱化を進行させているものと考え

られます。

ここ二年間、家畜市場取引相場は高値安定が続き、特にF1価格は高値相場から交雑種の出生率が四%上昇(中国地域)する一方で、

乳用雌子牛の出生率は、二・四%減少しています。

このことは、将来の生乳生産基盤とともに、個々の酪農経営に負の影響をもたらすことを示唆しているものと考えます。

この点を解決するには、計画的な後継牛確保により日々の生乳生産量のブレを無くし、日々の収入安定を図り、かつ、肉用資源の産出で付加価値収入を高めることをもって、健全な酪農経営と生活収入の安定を目指されては如何でしょうか?

大きくなってネ



**A酪農家の現況から今後の経営の在り方を考えてみましょう!?**

経産牛五十頭を飼養のA酪農家では、一年間の廃用率は二十五%であったと聞きました。年間平均搾乳頭数は四十頭とし、生乳出荷日量は、一トンの維持を目指されています。一般的に年間の乳用牛廃用率は二十五%以内に抑え、自家産乳用雌子牛の出生確保率は三十%程度とすべきとの指針があります。

このA酪農家では、結果としてこの一年間に経産牛十二頭の廃用が生じ、経産牛五十頭を維持するため、十一頭の自家育成牛の繰り上がりと残る六頭は北海道からの初妊牛導入をもって対応したとのことでありました。この時点の平均産次は二・六二産ですが、六頭を北海道から導入するために、この取得にあたり約三百六十万円の投資を伴ったそうです。

乳用牛十二頭の廃用の内訳は、計画廃用七頭、残る五頭は共済廃用とのことで、計画廃用七頭の何れも、出荷時生体重七百kgを超えており、総額で百四十七万円の売上収入があったもの



の、固定資産処分損が発生したそうです。

現状、A酪農家の経営では、毎年、乳用牛の淘汰率二十五%以内を想定される中で、毎年、後継乳用雌牛として三十%確保を目指すものの、直近二年間では、乳用雌子牛の出生率は

### A酪農家の経産牛飼養頭数

年齢範囲区分	産次	頭数	構成率	平均産次
2歳以上3歳未満	1産	17頭	34.0%	2.62産
3歳以上4歳未満	2産	13頭	26.0%	
5歳以上6歳未満	3産	8頭	16.0%	
6歳以上7歳未満	4産	5頭	10.0%	
7歳以上8歳未満	5産	2頭	4.0%	
8歳以上9歳未満	6産	2頭	4.0%	
10歳以上11歳未満	7産	2頭	4.0%	
11歳以上12歳未満	8産	1頭	2.0%	
合計		50頭	100.0%	

### 後継雌牛の頭数等

年齢範囲	実頭数	雌牛出生率	理想頭数	不足頭数
1歳以上2歳未満	11頭	22.0%	15頭	4頭
1歳未満	9頭	18.0%	15頭	6頭
合計	20頭		30頭	10頭

十八%から二十二%に止まっています。が、後継牛の確保にあたり、理想頭数に十頭満たない現実を表しています。このことは、乳オス子牛の出生率が高かったことが理由にあるそうです。ちなみに、交雑種の出生率は約五十%とのことでありました。

## 各地区でみる最近時の乳用雌子牛の出生率

以下の表は、平成二十五年、平成二十六年四月から十二月に亘る出生頭数、出生率をまとめたものです。

中国地区の出生頭数の内、乳雌子牛の出生率は、平成二十五年、平成二十六年、平成二十七年は、二十六・七%、平成二十八年は二十四・三%と、前年に比較して二・四%出生率は減少しています。

鳥取県は、従来から北海道に次いで乳用雌子牛出生率が高く、依然として三十%以上をキープされています。広島県は、平成二十五年、平成二十六年、平成二十七年、平成二十八年、平成二十九年と前年に比較して四・二%減少しています。

一方で、平成二十六年の交雑種出生率は、平成二十五年対比で三・四%伸長しています。

生乳生産地帯の九州も、交雑種出生率は高まり、乳雌子牛の出生率は低下する中、生乳生産基盤を維持・向上を目指す酪農経営体にとっては、北海道等の産地に初妊牛を求める依存状況にあると云えます。

しかし、現況、北海道においても生乳生産基盤の維持・拡大を取り組む環

### 出生率状況比較表

地区	平成26年4月～12月					平成25年4月～平成26年3月				
	出生頭数	1カ月単純平均出生率	乳雌子牛出生率	乳オス出生率	交雑種出生率	出生頭数	1カ月単純平均出生率	乳雌子牛出生率	乳オス出生率	交雑種出生率
中国	18,638	2,071	24.3%	25.5%	50.2%	25,709	2,142	26.7%	27.1%	46.2%
広島	3,274	364	22.4%	28.8%	48.7%	4,462	372	26.6%	28.0%	45.3%
鳥取	3,605	401	32.2%	31.7%	36.1%	4,929	411	34.5%	33.7%	31.8%
岡山	6,391	710	22.4%	23.2%	54.4%	8,924	744	23.4%	25.3%	51.2%
島根	4,190	466	21.8%	20.9%	57.4%	5,767	481	25.5%	21.9%	52.5%
山口	1,241	138	24.3%	29.3%	46.4%	1,633	136	25.8%	30.7%	43.4%
北海道	312,643	34,738	39.7%	39.6%	20.8%	407,840	33,987	41.0%	40.9%	18.1%
九州	35,888	3,988	22.2%	25.0%	52.8%	48,409	4,034	24.6%	26.9%	48.5%
鹿児島	4,925	547	26.3%	25.7%	48.1%	7,546	629	27.7%	27.7%	44.6%

境下であり、高値でも買い求めにくい現状も想定されるのでは無いでしょうか！

九州地区の中で、生乳生産実績が前年対比100%を超える、鹿児島県の出生状況が気になりましたので、あえて表内にデータを加えてみました。中国地区の乳雌子牛出生率を超える二十六・三%となっており、推奨の乳雌子牛の出生率三十%より低位で推移することが、今後の様に影響するのを思量するものであります。

こうした近未来の情勢を鑑み、自らの酪農経営に必要な乳用雌牛確保にあたっては、自ら生産し育成する基本に立ち返ることが必要とも思えます。如何でしょうか!

**確実に乳雌子牛出生率三十%確保とET和牛の作出で経営安定を!!**

酪農経営の安定のためには、やるべきことは幾つもあるでしょうが、今回の特集では子牛出生率に焦点を絞ってみました。

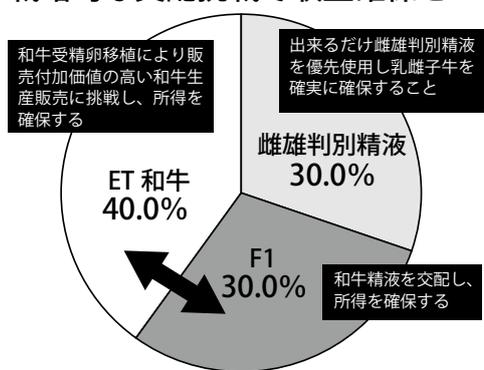
平成二十七年四月から生乳1kg当たり約三円の引き上げが決定しましたが、先行して生乳生産コストに及ぶ輸入乾牧草価格や、資材、配合飼料価格は値上がりしております。こうした中で、下のグラフで示すとお

り、酪農所得の向上にあたっては、出来るだけ優先して雌雄判別精液を使用し、確実に三十%以上の雌子牛を産出し、より所得向上を図るため、和牛受精卵の移植による和牛子牛の産出・販売に積極的

にチャレンジされることも一つの方法と考えます。  
和牛受精卵移植は、人工授精に比較して高く、受胎率の問題などリスクもありますが、本誌一月号(No.二百五十二)二十六頁の「今こそ受精卵移植」の紹介記事を一読のうえ、一考されては如何でしょうか!

個々の酪農経営において、確実に必要な後継雌牛頭数の百%の確保と、肉用資源の産出で付加価値収入の向上に挑戦されることに期待します。

**戦略的な交配挑戦で収益確保を!!**



日々徒然  
かがやき

いレシピ集」を作成され、積極的に牛乳・乳製品の普及活動にあたられてきました。

▼小山先生は記念講演で、「和食はユネスコ無形文化遺産に登録され話題となっているが、塩分の取り過ぎに注意する必要がある。和食は味噌や醤油などの伝統的調味料にコクや旨味のある牛乳を組み合わせることで、食材本来の風味や特徴を損なわずに食塩や出汁を減らすことができ、更に美味しくなる」とこれまで牛乳を利用してこられた料理研究の成果を伝えられました。

▼小山先生は、牛乳には栄養や成分、そして多くの良い効能や研究結果があるにもかかわらず、なかなかそれが浸透しないことから「乳和食」、「ミルクマジック」との新しいキーワードをもって普及活動を展開されています。こうした取り組みが全国に波及し、健康的な減塩効果料理や学校給食に定着するような展開を期待したいところです。

▼ぜひ、酪農女性の皆さんには料理教室にご参加頂き「乳和食」を実感されてはどうでしょうか。(乳和食料理教室のお知らせは二十一頁)

(T・Y)  
美陽 仙人